

1. 開設大学	広島国際大学		開講場所 (キャンパス・施設)		呉キャンパス	
2. 科 目 名	国際社会の理解Ⅲ					
	学問分野	番 号	42	名 称	Ⅳ 複合系 国際関係	
3. 担当教員	橋本 学 (心理科学部 臨床心理学科 准教授)					
4. 開講学期	前期					
5. 開講期間 (曜日) 開講時間	平成 30 年 4 月 11 日 (水) ~ 平成 30 年 7 月 25 日 (水) 16 時 20 分 ~ 17 時 50 分					
個別開講日	1 回目 4/11	2 回目 4/18	3 回目 4/25	4 回目 5/9	5 回目 5/16	6 回目 5/23
	7 回目 5/30	8 回目 6/6	9 回目 6/13	10 回目 6/20	11 回目 6/27	12 回目 7/4
	13 回目 7/11	14 回目 7/18	15 回目 7/25	16 回目 /		
6. 募集定員	10 人					
7. 科目内容・ 授業計画	【科目内容】 1. なぜ「アジア・アフリカ地域」なのか～欧米諸国に翻弄され続けてきた“迷子たち” アジアが存在するユーラシア大陸とアフリカ大陸とは陸続きだが、地政学的にはアジアとアフリカは別の地域＝州として区分され、住む民族も違えば文化も異なるため、現実にはそれぞれ別個のものとして論じられることが多い。しかし、アジアとアフリカは実は様々な点で共通点を持っている。例えば、背景としての歴史がそれであり、今日的には政治や社会情勢における混迷、あるいは経済的困窮実という問題も共有している。 2. いわゆる「アジア・アフリカ問題」研究の発端 担当者がここで指し示そうとしている視点は、なにも新しいものではない。第二次世界大戦の終結（1945 年）後、かつて「列強諸国」の植民地支配を強いられてきた“第三世界”では、独立国家の誕生が相次いだ。だが、そうした新生国家の多くは、統治経験の不在を原因に、政治的不安定や財政不安、民族的・宗教的対立が続き、結局、旧“宗主国”＝旧支配国やその他先進諸国の支援や政治介入に頼らざるを得ず、従って十分な自立を果たし得ない事態に陥った。1960 年代以降、いわゆる「アジア・アフリカ問題」が注目され始めた背景がこれである。 3. 「アジア・アフリカ問題」研究の今日的意義 さて、21 世紀を迎え、“アジア・アフリカ地域”では従来の“少数派による強権政治”への反発も活発化しつつある。ただ、国家の立て直しには、やはり先進諸国による「国際協力」が不可欠であろう。だが、世界的不況を前に、欧米諸国の支援にも限界の兆しが見えつつある。従って、“アジア・アフリカ地域”には、これまで以上に自助努力が求められる。でなければ、世界は“共倒れ”現象の発生を避けることができないと予測されるからである。今や「アジア・アフリカ問題」とは、決して“遠い世界の問題”ではなく、自らの“死活”にもかかわる問題だとの認識を持つ必要がある。 【授業計画】 第 1 回 “アジア・アフリカ問題”への招待～今日の動向と問題提起 第 2-3 回 “アジア・アフリカ地域”の枠組み～地政学的検証 第 4-10 回 開発途上国の歴史と現状～アジア・アフリカ諸国を例として 第 11-14 回 “アジア・アフリカ問題”の具体事例～錯綜する諸問題 第 15 回 求められる「国際協力」像					
8. 受 講 料	無料					
9. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) なし					
10. 学習記録	交付する				交付しない	
11. 科目等履修生	受け入れる				受け入れない	
	単 位 数	単 位				
	受入学年	高校	年生以上 (二次募集時	年生)		
	試験・評価					
	特記事項					
12. 開講条件※1 あり・ ☒ ない	① 最少開講人数 (人) ② 不開講通知日 (7 月 13 日 (金) 以前の開講科目は 3 月末まで / 7 月 14 日 (土) 以降の開講科目は 6 月末まで)					
13. その他特記事項	受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと					
14. 開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/ から開設大学のホームページにジャンプして確認してください。					